

箕面市立 多文化交流センターニュース

Minoh Multicultural Center News

発行：箕面市立多文化交流センター 指定管理者：(公財) 箕面市国際交流協会 (MAFGA)

No. 17

発行 2021年3月

気づきと学びの一年

～不安と期待から新たな世界へ



- P1 2020年度の多文化交流センターをふりかえる
- P3 多文化交流センターにつながる人たち
テーマ： コロナ禍の「私」を振り返る
- P8 Information



2020年度の 多文化交流センターを ふりかえる

2020年度は一言でいうと「混沌」の1年でした。地域社会だけでなく、世界中の格差を拡大させたコロナ禍は、フリーランスや非正規の労働に従事することが多い外国人市民の生活を直撃、多くの相談が寄せられました。経済や効率を重視するこれまでの社会システムが行き詰まる中、地域で暮らす文化や意見の異なる人達同士がいかに折り合いをつけ、連帯できるのか。スケールの大きな、難しい課題ですが、社会的包摂をめざす試みが多文化交流センターには沢山あります。背景の異なる人たちが、どのように向き合い、ともに取り組んでいるのか。センターを取り巻く状況をお伝えします。



岩城あすか
(箕面市立多文化交流センター館長)

3密を避けた貸館運営 ロビーの子どもたちはどこへ!?

春の緊急事態宣言解除後、5月末からしばらくの間、センターは利用定員を制限しての運営に。また、2021年1月の緊急事態宣言発出以降は、午後8時での閉館になりました。利用者数は前年と比べかなり減少しました。また2階ロビーでは、飲食や長時間の滞在の自粛をお願いしました。普段は放課後や休日に子どもたちが集まり遊んでいますが、ここでも利用はかなり減少。コロナ禍が長期化するなか、地域の人たちがつながる拠点としての機能をどう維持するのか。悩ましい状況です。



多言語で案内中

返却本は3日間保管 奮闘する小野原図書館

小野原図書館もセンターの閉館に伴い5月末まで閉館。再開後は返却された書籍を3日間保管してから書棚に戻し感染防止を図っています。そのためバックヤードは、返却本が詰め込まれたコンテナでいっぱい。月平均8,400人あった来館者が、6月は5,400人(前年比64%)までに減少しましたが、現在は例年通りに戻りつつあります。定期開催していた絵本の読み聞かせイベントは安全を最優先に考え中止。一方で、新しい取り組みとして3月からはオーディオブックと電子書籍の貸出が始まります。これからも、地域の生涯学習の拠点として活用ください。



出入りは一方通行に



そびえ立つ本が詰まった
コンテナたち

多文化交流センターの1年

- 2020年
 - 4月7日 大阪府に緊急事態宣言発出。多文化交流センター閉鎖
 - 5月21日 大阪府の緊急事態宣言が解除。定員削減などの対策をしながらセンター開館
 - 6月9日 日本語教室、国際理解のための語学講座を再開
- 2021年
 - 1月14日 大阪府に二回目の緊急事態宣言発出。多文化交流センターは午後8時閉館に
 - 1月19日 日本語教室、語学講座はオンラインに。comm cafeは喫茶のみの営業に



『多民族フェスティバル』も苦渋の中止 でも、うれしい声

毎年秋に開催している多民族フェスティバル。地域団体、国際交流の市民団体などによる実行委員会で意見交換を行い、感染拡大防止を優先して初めて開催を断念しました。代わりに各団体がセンター内で展示を行ってはどうかという意見も出ましたが、実現に至らず。センターには電話や来館で「今年はないの?」「毎年楽しみにしているのに、とても残念」などの声が寄せられました。主催者としてはフェスティバルが地域で定着してきたことを実感。地域や関係者の皆さんと協働していこうという思いを新たにしました。

イベントができなくなった comm cafe 今、地域のためにできることを

2013年5月のオープン以来、営業を続けてきた comm cafe も、4月の緊急事態宣言後は1か月以上の休業を余儀なくされました。このような状況で自分たちに何ができるかをスタッフで話し合いフードドライブを開始。毎年年末に行っていたシェフとボランティアとの交流会は初めて開催が叶いませんでした。しかし、「こんなときこそ集まって話したい」と、シェフたちだけは集まって「大掃除の会」をすることに。コロナ以前と今とで前向きに捉えていること、しんどくなったことなどを率直に語り合いました。



大人よりできる! コロナ時代を生き抜く子どもたち

多文化体験・交流・学びクラブ「まふがっこ」では、小学生たちがモンゴル、ベトナム、タイの暮らしや食べ物、遊びについて話を聞き体験しました。講師の1人、タオさんはベトナムから来日ができず、急遽オンラインに。その後、子どもたちと対面したときは喜びもひとしおでした。外国ルーツの子どもサポート事業でも、学習支援や居場所づくりをオンラインで実施。いつもは無口な子が実はITスキルが高くて大活躍する、という一面も。しな



やかに変化に対応する、たくましい子どもたちの未来に期待が高まります。

試行錯誤の日本語教室 オンラインに期待と不安

昨年度まで、約100名の学習者が参加していた5つの日本語教室も、6月初旬まで中止に。再開当初は昨年度より学習者が減ったものの、秋にかけて次第に回復。また9月からは、西南生涯学習センター、東生涯学習センターでも日本語教室を新設しました。そして2021年1月の2回目の緊急事態宣言により、すべての教室をオンライン開催に切り替えました。「学びが継続できて、ありがたい」と学習者には好評のようですが、教える側にとっては教え方や教材の使い方も変わり試行錯誤が続きます。



「仕事が減った」「感染したらどうしよう…」 630件の切実な相談に多言語で対応

今年度からセンターは法務省が実施する「多文化共生総合相談ワンストップセンター」となり、センター閉鎖期間中も多言語による生活相談事業を継続しました。2020年4月～12月の対応件数は630件。内訳をみるとなっています。コロナ禍による帰国困難、収入減や生活困窮、母国での感染拡大のニュースを受けての精神的不安、日本語が不自由なかで通院することへの不安など、コロナの影響による相談も多数寄せられました。関連機関と連携しながら対応する「多言語による生活相談窓口」の存在を、身近な方にもぜひお伝えください。



<多言語による 生活度相談窓口>

毎週火曜日～日曜日 9:00～17:00
受付方法: 来館、メール、電話
対応言語: 日本語 韓国・朝鮮語
中国語 英語 ポルトガル語



多文化交流センターに つながる人々たち

テーマ： コロナ禍の「私」を振り返る

“普通の毎日”が一変した2020年。「当たり前」だったことが、「当たり前」にできない毎日に、程度の差はあれどストレスを感じたり、しんどかったり、そして寂しかったり。どんな日々を過ごされておりましたか？

今回のセンターニュースでは、多文化交流センターに関わる、環境や経験、言葉、文化など実にさまざまな背景を持つ方々に、コロナ禍の「私」をふりかえってもらいました。一人ひとりの言葉に、共感したり、驚いたり、ほっこりしたり。

それぞれの方の一年のふりかえりを通して、センターの2020年度をふりかえります。

日本語教室



かわしまかずこ
川島一彦

箕面市ハット市友好クラブ副会長
日本語教室「ひまわり」のボランティア

毎月の英会話サロン、ニュージーランドワイン試飲会、年末のキウィパーティーなど、箕面市ハット市友好クラブが主催する行事は軒並み中止になり、ストレスを感じる事が多くありました。家にこもりがちだったので、一冊の本をお供に山歩きを始めました。歩くのに疲れると本を読みながら休憩しました。密もなく、気分転換になりよかったです。



そんせみん
栄世民

中学生「せいなんにほんご」参加者

今年は何もできない一年でした。その分、家で勉強やゲームをして過ごしました。一人であることが多かったので将来のことを考える時間にもなりました。この先何があるかわからないので、貯金をしたいと思います。サラリーマンにはなりたくないですが、しっかりお金を稼ぐ仕事に就きたいです。



あわたしおり
粟田志保里

大学生 萱野にほんごの日本語ボランティア、
みのおポスト英語の翻訳ボランティア

大学もほぼオンライン授業となり、人との繋がりが薄くなったように感じていました。そんな中、協会のボランティアに参加しました。活動を通して新しい出会いがあり、そして、活動がどこかで誰かの役に立っているという実感もあり、参加して本当によかったです。



りずじん
李秀眞

「せいなんにほんご」で日本語教育
アドバイザー

不安を感じながら家で漫然と過ごしていましたが、だんだんその時間を活かしたいと思い、韓国で流行しているマスクチェーンなど「今」ならではのアクセサリ作りを始めました。今回の状況は、国や言語によってメディアの報道内容が異なるため、コロナに対する知識やとらえ方にギャップを感じ、不安を抱える人はたくさんいたのではないのでしょうか。



いけだけいこ いのうえりょうこ おくむらとしろう さとうかずこ
池田圭子、井上良子、奥村俊郎、佐藤和子

交流型日本語学習支援「ひまわり」
2020年度グループコーディネーター

4月から交流型日本語学習支援「ひまわり」のグループコーディネーターとして活動するという期待と不安を感じながら準備を進めていたところ、緊急事態宣言で日本語教室は活動自粛に。しかしそれは「ひまわり」というグループの活動内容を見つめなおし、原点を探るような時間になりました。「つながれない今だからこそ、つながろう」と、これまで消極的だったオンラインツールも活用し、ボランティア全員がつながることができました。これからも日本語学習を通して学習者が地域の人と出会う場を提供していきたいです。



左上から時計回りに池田さん、奥村さん、佐藤さん、井上さん

子ども事業



10月に千里北公園にピクニックに！

きむてよん
金兌容

小学生「こどももっと」※参加者

図書館に来て「こどももっと」のことを知りました。もしコロナが流行してなかったら、もっとたくさんの外国人の友達と出会う、外国人文化交流に参加していたと思います。でも「こどももっと」に参加して、親切な先生、先輩たちと楽しい時間を過ごすことができとても感謝しています。

※こどももっと…外国にルーツをもつ子どもたちが、遊んだり勉強したりするなど自由に過ごすことができる居場所

オチルホヤグ ボルドバートル
多文化体験・交流・学びクラブ「まふがっこ」講師

周りには「アルバイトが減り、収入が激減した、帰国できない」という人や、漢字が読めなくて情報につながるできないという人がたくさんいました。その中でSNSやオンラインツールを最大限に活用し、互いの困っていることを話し合い、食べ物分けたり、情報を共有したり、アルバイトを紹介したり、モンゴル人コミュニティ内で助け合って乗り越えています。

さきのみり
笹野美紀

小学生「まふがっこ」参加者

「まふがっこ」の日は、カレンダーに赤で〇をしています。今、外国に行くことができないけど、いろんな文化を知れて楽しいです。いつも comm cafe で食べているベトナム料理のフォーにもいろいろ種類があってびっくり！今日、学校に韓国出身の先生が来てくれて、韓国について教えてもらいました。韓国語を自分で勉強するのはどうしたらいいのかな。チョアオ！



たにむらあやこ
谷村綾子

千里金蘭大学生活科学部児童教育学科准教授

学生たちにより生きた学びをと、地域に住む子育て中の外国人市民から生の体験談を聞く授業をしています。今年で3年目となった協会との取り組み。毎回、包み隠さない率直な言葉は、保育や教育の現場をめざす学生の心に強く響いています。学びの機会が大幅に制限された一年でしたが、この経験が将来の糧となることを願ってやみません。



ボルドバートル マンライバヤル

小学生「まふがっこ」・「さぼると」参加者

小学校がお休みになって、友達と遊ぶ時間が短くなった時は寂しかったです。オンラインで世界の色々な国や地域に住んでいる子どもたちと一緒にモンゴル語の勉強を始めました。世界中に新しい友たちができ、僕はモンゴル語の文字が読めるようになりました。「さぼると」や「まふがっこ」にもオンラインで参加しているので、パソコンも少しできるようになってきて嬉しいです。



へなタマリア & 藤木マリア

中学生「こどももっと」参加者

兄と姉が来ていて MAFGA のことは知っていました。自分で来るようになったのは2年前の「こどももっと」のキャンプ。お互い同じ年のメンバーに巡り合ったことがきっかけ。自動通訳機能を使えば世界中の人とつながれる時代だけど、リアルな出会いの場はここにしかなかった。閉鎖中は困りました。マスクは元々好きだったし、学校では一人でもオンラインでは気の合う友達もいました。でも、仲良くしていた中国のプレイヤーが差別発言をたくさん受けてゲームを辞めると言うのでそれは悲しかったな。



出会ったころの2人



中3になった2人

comm cafe



フォルハ・ハリノヴィチ
留学生 comm cafe スタッフ

思い浮かぶワードは「さみしかった」です。行動が制限されて、いつも会う人達にあいさつさえもできなかったからです。でも、振り返ってみると、ゆっくりと自分を見つめる時間になりました。ニュースで気持ちがマイナスにならないように、「コロナ禍でも何かを楽しむこと」を胸に、ポジティブな気持ちを保っていきたいです。



とよかわたえこ
豊川多恵子
comm cafe ボランティア

コロナのため、趣味の旅行に行くことができず、とてもストレスを感じました。息子たちが来て食事をするのもままならないので本当につらく感じます。comm cafe がランチを休むと聞いた時もショックでした。ボランティア活動は社会的な窓口でしたから。その代わりに散歩をして、気分転換かつ運動不足の解消をしています。



ゴメス セバル
comm cafe シェフ

仕事をはじめ、いろいろな場面でオンラインの導入があり、チャレンジの多い一年でした。私個人としては、家族と過ごす時間が増えて比較的ゆっくりでき、願っていた生活になりました。このような世界的な環境の変化の中で、今自分に何ができるかを考え、過去を振り返らずに、できることに集中して生きていきたいと思っています。



アブドゥ シュー
「ひがしにほんご」参加者
comm cafe シェフ

仕事では収入も減り、ストレスの多い1年でした。お酒もタバコも吸わない私は、家と職場を往復する毎日でした。偶然、近所で畑仕事をする人に声をかけたのをきっかけに、協会に繋がり、生活が劇変しました。日本語教室に通い始め、comm cafe でシェフデビューをし、沢山の仲間に出会いました。今後はセネガルと日本をつなげる活動がしたいと思うようになりました。



こまつのりこ
小松紀子
小野原図書館館長

新型コロナを一言でいうなら「SFを地でいく」。そこでおすすめしたいのが『復活の日』(小松左京/著)。研究所から持ち出された死亡率が極めて高い細菌が世界中に広がり…というパンデミックSFの名作です。「そのとき何が起こるか」がどれほどの中しているか、半世紀以上前の予言をお楽しみ下さい。



やまおかけいこ
山岡慶子
箕面市社会福祉協議会職員
(ささえあいステーション担当)

地域での支え合いを推進する「ささえあいステーション」。「地域活動は不要不急なのか」を突き付けられた一年でした。それでも地域の方々や語り合い、高齢者の見守りや学校での福祉教育、飲食店との連携などにも取り組みました。これからも地道に着実に、コミュニティ内の支え合いを進めていきます。週一回、あいあいルームにいますので是非お立ち寄りください！



センター関係者



たなかひさえ
田中久恵
施設利用者 「さくら書き方教室」主宰

園児から70才代までの幅広い世代が通う、書道教室を主宰しています。突然の休館に、自宅練習に切り替えるための対応に追われました。再開後は、教室内のレイアウトを工夫し、消毒を徹底しています。小学生と70代の方と同じ場で良いのか…悩みはつきません。練習をせずお互いの近況報告をしただけの回もありました。書道教室という枠を超えた、大切な場所になっていることを痛感しました。

いのうえよしあき
井上芳明
豊川南小地区福社会会長

2020年は豊川南小学校区の地区福祉会の設立40周年でしたが、記念行事を開催することができず残念でした。9月より再開した「子育てサロン」や「仲よしサロン」では、参加者の皆さんと楽しい時間を共有しています。これからも、世代や文化を超えて、地域の中で強く繋がりあえる活動を行っていきたくです。



2019年 姉妹都市メキシコ・クエルナバカから大学生が来日した際に、お習字を教えた右端が田中さん

グエン ノック アイ
留学生 センターのインターン

大変な一年となりました。大学の授業が全てオンラインになり、思い描いていた大学生活を過ごすことができず、後悔しています。『若草物語』の作者ルイーザ・メイ・オルコットの「雲の向こうは、いつも青空」という名言があります。私の大好きな一節です。厳しい状況でも立ち止まらずに前を向いて歩み続けたい。物事がきっとよくなります！



とうとう
東堂マリナ
協会の英会話講師

ストレスの多い一年でした。生活様式の変化で一人ひとりが価値観を見直しています。私も、「自分にとって大切な人」に改めて気づかされた。テレワーク、愛する人との距離、自分の健康など、今まで当然と思っていたことが揺らいでいます。そんな中、未来の可能性を形づくる活力となるのは「前進すること」です。2021年がいよいよ年になりますように。



箕面市立多文化交流センター (Minoh Multicultural Center)

指定管理者：公益財団法人箕面市国際交流協会
MAFGA (Minoh Association for Global Awareness)
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西5-2-36
電話・FAX：072-734-6258
URL：http://minoh-tabunka.jp/
開館時間：9:00～22:00
休館日：毎週月曜(ただし、祝日の月曜は開館)
と年末年始

多文化交流センター施設のご利用

- 貸室
初めて貸室を利用される場合、「利用者登録」が必要です。登録の手続きは、窓口のみで受付します。(9:00～17:00)
* 貸室：講座室A・B・C、会議室、ミーティングルーム兼学習室
- * 時間：午前(9:00～12:00)
午後(13:00～17:00)
夜間(18:00～22:00)
- * 料金：午前(950円)／午後・夜間(1,250円)
- 子ども活動室(プレイルーム)：事業で使用していない時間に一般開放(9:00～17:00)
専有利用(有料)については、お問い合わせください。
- 印刷室(2階)
* 時間：9:00～21:00
* 料金：製版1枚50円・インク代10枚5円
- コピー機(1階事務所内)
* 時間：9:00～22:00
* 料金：1枚10円(白黒のみ)

comm cafe URL: commcafe.org

世界の家庭料理を日替わりシェフが提供!
地域で暮らす外国人市民の社会参加を促進するとともに、誰もが等身大で交流できるカフェです。
開店から7年を迎え、これまでに40の国と地域から、80名を超える外国人市民が参画しています。

- * 時間：9:30～17:00
(ランチタイムは火曜～土曜 11:30～14:00
※売切れ次第終了)

カフェ直通 TEL: 072-734-6255



情報発信 URL: mafga.or.jp

- 箕面市国際交流協会HPからダウンロード可
- 箕面市国際交流協会
月刊情報誌「めるん」毎月1日発行
 - 多言語生活情報誌「みのおポスト」：隔月発行
やさしい日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語
 - 箕面市立多文化交流センターニュース：年1回発行
 - みのお多言語ポータル <https://portal.mafga.or.jp/>

定例事業 (国際交流協会)

場所：多文化交流センター
問合せ TEL: 072-727-6912 (国際交流協会)
FAX: 072-727-6920

- 日本語教室
 - －「ささゆり」(初級読み書き)
毎週火曜 10:00～12:00 ※保育あり(定員10名)
 - －「せいなんにほんご」*西南生涯学習センター
毎週水曜 19:00～20:30
 - －「あかね」(初級会話)
毎週木曜 10:00～12:00 ※保育あり(定員10名)
 - －「ひまわり」(交流型日本語教室)
毎週金曜 10:00～11:30
 - －「さんさんクラブ」(おやこで日本語交流)
第1・3水曜 10:00～11:30
 - －「萱野にほんご」*場所：らいとびあ21
毎週金曜 19:00～20:30
 - －「ひがしにほんご」*場所：東生涯学習センター
毎週日曜 10:00～11:30

● 外国にルーツをもつ子どもサポート事業

対象：小学生～高校生
－学習支援「さぼると」：毎週土曜 10:00～11:30
－居場所づくり「こどももっと」：毎週土曜 13:00～16:00

● 多言語生活相談

毎週火曜日～日曜日 9:00～17:00
受付方法：来館、メール、電話
対応言語：日本語、韓国・朝鮮語、中国語、英語、ポルトガル語
個別相談日
相談員が各言語の通訳者と一緒に解決方法を考えます。
日時：毎週火曜日 11:00～14:30
対応言語：韓国・朝鮮語、中国語、英語
第2・4週は、ベトナム語とポルトガル語も対応
その他の言語での相談にも対応します。

箕面市立小野原図書館のご利用

開館時間：9:00～17:00
休館日：毎週月曜(ただし、祝日の月曜は開館)
と年末年始

催し：木曜
10:30～ よちよち♪えほんタイム
15:30～ てくてくえほんタイム
第1・3日曜
14:30～ てくてくサンデー
TEL: 072-749-5176

センターニュース No. 17

- 編集・発行 箕面市立多文化交流センター 指定管理者：(公財)箕面市国際交流協会
〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36
TEL/FAX: 072-734-6258 <http://www.minoh-tabunka.jp/>
- 発行日 2021年3月31日

